

生きもののシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和8年3月
48号

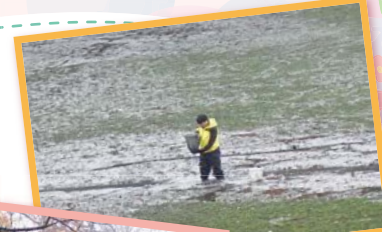
池干し
特集

池の生きものを救出しました!

11/16
明德池



12/21
茶屋ヶ坂池



CONTENTS

池干し
特集

池の生きものを救出しました! P1~3

- TOPICS 生物多様性カフェ 「昆虫界のエイリアン 寄生蜂(きせいほう)」 P4
- 森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー P4
- 令和7年度 主な行事等の実績・なごや生きもの報告会案内 P5
- 活動紹介 名東自然倶楽部 P6
- 掲 示 板 機関誌「なごやの生物多様性」第13巻を発行しました P6



明德池・茶屋ヶ坂池 池干し

なごや生物多様性センターは、なごや生物多様性保全活動協議会（なごビオ）と協力して市内各地で池干しを実施してきました。近年市内のため池では、堤体の耐震補強工事や浚渫が行われており、令和7年度は明德池（名東区）と茶屋ヶ坂池（千種区）で工事が実施されました。これらの工事では池の水を数ヶ月にわたり抜いてしまうため、生物保護のために池干しを実施しました。

明德池 池干し

2025年
11月16日

明德池は名東区明德公園内にあるため池で、普段は釣り池として市民に利用されています。明德池の池干しには、なごビオ会員、なごや生物多様性センター職員、名東土木事務所職員、施工業者など約50名が参加しました。また、地元3学区の小学4～6年生48名に生きものの運搬をお手伝いしてもらいました。

生物は地引網とタモ網によって捕獲され、16種、約22,000匹が確認されました。在来種では、モツゴ、スジエビが特に多く捕獲されました。この2種は市内の河川やため池などで広く確認されています。他にも、テナガエビ、モクズガニ、ニホンウナギが捕獲されましたが、これらは海と淡水域を行き来する在来種です。これらの種は昨年池干しを実施した緑区の水広下池でも確認されています。街中にある公園の池でも、海との繋がりがあることがわかります。外来種ではブルーギルなどが確認されましたが、今回の工事により水が長期間なくなることで取り除くことができるのではないかと期待できます。

池干し調査結果

和名	個体数	備考
ミシシippアカミミガメ	3	条件付特定外来生物
ウシガエル	2	特定外来生物
ニホンウナギ	1	絶滅危惧IB類 ^{※2}
コイ（飼育型）	41	外来種
ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）	600～700	外来種、事前回収を含む
モツゴ	※10,000	
ブルーギル	※900	特定外来生物
トヨシノボリ	73	
カワリヌマエビ属	8	外来種
テナガエビ	※1,200	
スジエビ	※9,500	
アメリカザリガニ	150	条件付特定外来生物
モクズガニ	7	準絶滅危惧 ^{※2}
カワヒバリガイ類	1	死骸
シジミ類	1	死骸
水生昆虫（ヤゴ）	100	

※1個体数は重量より算出
※2名古屋市版レッドリスト2025

仕分け場所の準備



三人がかりで運搬、重い...



地引網

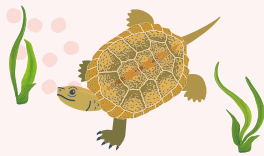


イベント後も採集を続ける様子



茶屋ヶ坂池 池干し

2025年
12月21日



茶屋ヶ坂池は千種区茶屋ヶ坂公園内にあるため池で、2013年にも外来種駆除を目的として池干しを実施しました。その際は水を抜ききることは無かったものの、オオクチバスやコイなどを駆除しています。今回の茶屋ヶ坂池の池干しには、なごびオ会員、なごや生物多様性センター職員など約40名が参加しました。

池の中は水生植物のマツモが大量に繁茂して地引網が使用できない場所が多かったため、生物は主にタモ網を使って捕獲しました。結果、20種、約7,000匹の生物が捕獲されました。特に多く捕獲されたゲンゴロウブナ（ヘラブナ）、コイ（ニシキゴイを含む）、カムルチーは外来種です。これらは前回の池干しで多くの個体を駆除しましたが、取り残したものが増えたか、再放流されたものと考えられます。なお、前回の池干しで確認されていたオオクチバスは今回確認されませんでした。前回の池干しで根絶に成功し、その後の密放流なども無かったと考えられます。

今回捕獲された生物の中で興味深い種としては、ニホンイシガメと二枚貝があげられます。ニホンイシガメは市内の河川やため池に生息していますが、生息地の減少などによりその数を減らしており、名古屋市では絶滅危惧II類に選定されています。今回の池干しでは合計9匹が捕獲されており、ニホンイシガメにとって貴重な生息地だと言えます。しかし、些細なことで絶滅してしまう可能性も少なくないため、見つけても捕獲などはせずに見守ってください。

また、二枚貝は事前調査を含めて約550匹が捕獲されました。過去にも生息が確認されていましたが、これほどの数は生息していませんでした。前回の池干しで二枚貝を捕食するコイを駆除したことなどが増加の原因と考えられます。この二枚貝については同定（種類を調べる）のため専門家にサンプルを提供し、外部形態の計測と遺伝子の分析をお願いしています。今後、この二枚貝の種類が明らかになることが期待されます。

池干し調査結果

和名	個体数	備考
フサガメ	2	事前調査で捕獲
ニホンイシガメ	9	絶滅危惧II類 ^{※1} 事前調査を含む
ミシシippアカミミガメ	2	条件付特定外来生物 事前調査を含む
カブトニオイガメ	1	外来種 池干し当日のみ捕獲
ウシガエル	1	特定外来生物
コイ（飼育型）	11	外来種
ゲンゴロウブナ（ヘラブナ）	1734	外来種
フナ類	791	
モツゴ	※ ¹ 1,600	
ナマズ	1	準絶滅危惧 ^{※2}
カダヤシ	39	特定外来生物
ブルーギル	※ ¹ 1,000	特定外来生物
トウヨシノボリ	※ ¹ 1,300	
カムルチー	93	外来種
カワリヌマエビ属	39	外来種
テナガエビ	92	
スジエビ	6	
アメリカザリガニ	21	条件付特定外来生物
二枚貝（未同定）	550	事前調査を含む概数
水生昆虫（ヤゴ）	23	

※¹個体数は重量より算出
※²名古屋市版レッドリスト2025

★ マツモの少ないところでは地引網を使用した

小さい魚は金魚網で

捕獲されたフナ類

捕獲されたニシキゴイ

タモ網をもって捕獲する様子

捕獲したモツゴ

今後について

捕獲した在来種の一部は、なごや生物多様性センターに運搬しました。工事が終了するまでの約半年間、生簀にて保護しています。池の工事が終わって水が戻ったところに順次放流します。また、その後は放流した生物がどのように増減するのかモニタリング調査を行う予定です。

第45回 生物多様性カフェ

「昆虫界のエイリアン 寄生蜂(きせいほう)」

11月30日(日)

話題提供者:名城大学農学部 山岸健三 名誉教授 場所:なごや生物多様性センター

● ミクロなエイリアン「寄生蜂」の正体

寄生蜂はハチの中でもほかの昆虫等に寄生して生活するものを行い、体長はわずか0.4mmから大きいものでも数mm程。他の昆虫に卵を産みつけ、幼虫がその体を食べて育つという驚くべき生態を持ちます。寄主を最終的に死に至らしめるため、寄主と共生するほかの寄生者と異なり、「捕食寄生者」と呼ばれます。山岸先生は高校時代、網戸を歩く0.4mmの微小なハチに感動して以来、この「ミクロなエイリアン」に魅せられ、50年以上研究を続けてきました。

● 微小な世界を保存するための驚きの技術

研究の第一歩は採集です。先生はテント状の網を仕掛けて飛んでいる昆虫を捕らえる「マレートラップ」などの仕掛けを使い、目に見えないほどの小さなハチを集めます。特に驚かされるのは、その標本作成の技術です。寄生蜂はアルコールに漬けて保存しますが、そのまま乾燥させると体が繊細なので潰れてしまいます。そのため先生は高価な装置を用いてハチをアルコールに入れたまま凍らせる「凍結乾燥」を行います。そうすると翅や腹部がふっくらと伸びた美しい標本に仕上がります。カフェの会場には、こうして作成された標本の一部が展示され、参加者は目を凝らして小さくて美しい寄生蜂を観察していました。

● 未来への期待と知的好奇心あふれる質疑応答

寄生蜂が寄主へ寄生する際には、麻酔を使って動けなくしたり、寄主の体内の免疫システムをうまくかいくぐるなど巧みな戦略をとっていることが分かってきたそうです。しかしまだまだ分からないことが多く、今後は寄生蜂の多様性のさらなる解明が期待されます。質疑応答では「人間に寄生するのか?」という問いに対し、先生は「人間の高度な免疫システムがあるため、ハチが寄生することは考えにくい」と解説。マニアックな質問にもユーモアを交えて答える先生の姿に、会場は大いに盛り上がりました。飲み物片手に、小さなハチが繰り広げる食物連鎖の不思議に思いを馳せる、生物多様性カフェならではの濃密な時間となりました。



とても小さい標本を目を凝らしてみる参加者



寄生蜂の標本



講義の様子



参加者と標本を観察する様子



全体の様子

森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー

10月19日(日)

森林環境譲与税[※]を財源とし、森林の保全・再生に向けた普及啓発の一環で、バスツアーを開催しました。小中学生とその保護者総勢29名で、名古屋市の水道の源でもある木曽川の支流、飛騨川の上流域にある「皇樹の杜」へ足を運び、森林保全体験や自然をテーマとした地元のイベントへ参加しました。

※森林環境税/森林環境譲与税：温室効果ガスの排出抑制や災害防止などを目的とした森林整備や、それを促す人材育成・普及啓発等に必要となる財源を安定的に確保するため、国民が等しく負担を分かち合っ森林を支える仕組みとして創設されたもので、名古屋市にも令和元年度から譲与税が配分されています。



笹刈体験の様子
里山を育てるための管理を体験しました



曲げわっぱに詰めた地元の食材が
たっぷりのお弁当を現地でもいただきました

令和7年度 主な行事等の実績



センター …なごや生物多様性センター主催

なごビオ …なごや生物多様性保全活動協議会主催

[] 内は開催場所。開催場所の記載のない行事はなごや生物多様性センター

日付	名称【開催場所】	主催	
令和7年	4月～6月	出張展示「なごやの里山の生きもの」・「なごやの河川の生きもの」 【庄内緑地・戸田川緑地・西区役所（順次）】	
	5月1日～6月30日	なごや生きもの一斉調査2025～カエル編～	なごビオ
	5月11日	なごや生きもの報告会【名古屋市立大学】	なごビオ
	5月15日	オオキンケイギク抜き取り会【山崎川河川敷】	なごビオ
	5月17日～18日	集まれ愛知の魅力博【愛・地球博記念公園】	
	5月19日	オオキンケイギク抜き取り会【植田川河川敷】	なごビオ
	6月22日	クビアカツヤカミキリ防除講習会【戸田川緑地】	センター
	7月19日	愛知サマーセミナー「微生物から考える生物多様性」【名古屋中学校・高等学校】	
	7月19日～8月11日	なごや生物多様性サマースクール2025（10講座）【各所】	なごビオ
	9月13日	環境デーなごや2025へ出展「なごやの河川の生きもの」【中区 久屋大通公園】	
	10月19日	森林保全体験を通して生物多様性を学ぶバスツアー【下呂市】	センター
	11月1日	外来スイレン除去【千種区 東山新池】	
	11月6日	自然系調査研究機関連絡会議（NORNAC）【山梨県 人材開発センター富士研修所】	
	11月8日	第10回なごや生物多様性センターまつり／ユースひろば	センター
	11月16日	池干し【名東区 明德池】	なごビオ
	11月29日	ツバメの巣ワークショップ（中日新聞社主催）	
	11月30日	第45回生物多様性カフェ「昆虫界のエイリアン 寄生蜂」	センター
	12月20日	第46回生物多様性カフェ「マダニとダニが媒介する病気のはなし」	センター
	12月21日	池干し【千種区 茶屋ヶ坂池】	なごビオ
令和8年	2月14日	ビオトープ講座「ビオトープにいる微小水生生物のいろいろな眼を見てみよう!」	センター
	3月15日	標本講座「動物の歯型をとろう!」	センター
	3月22日	なごや希少種シンポジウム2026【中区 鯉城ホール】	センター
3月	機関誌「なごやの生物多様性」第13巻発行	センター	
通年	出前講座・見学対応等【各所】	センター	
	外来種（アライグマ・クビアカツヤカミキリ等）防除【各所】	センター	
	市民協働による調査保全活動【各所】	なごビオ	
	植物標本作成講座【各所】	センター	
	昆虫パラタクソノミスト養成講座	センター	

「なごや生物多様性保全活動協議会 なごや生きもの報告会」

なごや生物多様性保全活動協議会の活動報告会を開催します。令和7年度の調査等で得られた情報をもとに、最新のなごやの生きものについてお伝えします。詳細はなごや生物多様性保全協議会公式ウェブサイトでご確認ください。

日時 令和8年5月10日（日）午後0時45分から4時45分

会場 名古屋市立大学 桜山キャンパス さくら講堂

定員 300名（先着）

なごや生物多様性保全活動協議会公式ウェブサイト イベントカレンダー▶
(<https://bdnagoya.jp/event-calendar>)



だなも
生物多様性
キャラクター
応援団





◀名東自然倶楽部
ウェブサイト
<https://sizen.ciao.jp/index.html>

名東自然倶楽部は、名古屋市と「緑のまちづくり活動に関する協定」を結び、猪高緑地の保全活動を行っているボランティア団体（個人会員70名、団体会員2団体）です。1998年、幾つかの環境団体が集まって設立されました。

猪高緑地は名東区にあり、長久手市と接しています。面積66.2ha、標高50～110mのアップダウンを繰り返す起伏に富んだ緑地です。2026年3月、環境省より自然共生サイトに認定されました。

当倶楽部には7つのグループがあり、それぞれの分野で活動しています。勿論、グループ単独のみでなく、グループ（以下、G）が連携した活動や、倶楽部全体での活動も行っています。①里山保全G ②田んぼG ③炭焼きG ④自然観察G ⑤総合学習G ⑥竹クラフトG ⑦調査Gです。

猪高緑地の魅力を伝え、緑地の劣化を少しでも食い止める為に、今後も活動していきたいと思っています。

親子田んぼ体験会

約100名を超える親子が田植えから収穫まで田んぼの体験をします。この体験会以外に、保育園や幼稚園など9つのチームが稲作の体験をしています。田んぼGは水の確保の為に活動や水路の補修、水量管理、農機具のメンテナンス等を行い、各チームが稲作を体験できる様に整備しています。



竹管理 企業との共同

増えすぎる竹を抑える為の活動を、親子や近隣自治体の体験会だけでなく、企業と協働して行っています。体験会を超えて、倶楽部だけでは出来ない実質的な管理活動となっています。

スイレン対策（なごビオとの協働）

スイレンに覆われてしまった塚ノ杵池（3.2ha）のほんの一部ですが、駆除を行っています。埋まって行くため池の対策として、泥上げも兼ねて行っています。



猪高緑地は自然共生サイトに認定 2026.3

上記のように継続的な活動が行われていることに加え、行政や専門家、市民と連携し植物、水生生物、昆虫、哺乳類等の生物調査や水質等の自然環境調査が継続的に行われており、期間の長いものでは50年以上前から地道な取り組みによって自然のデータを豊富に蓄積しています。これらの取り組みと右記の価値が評価され、自然共生サイトに認定されました。

1.生物多様性の恵み（生態系サービス）の提供の場

都市近郊にありながら、雑木林、ため池、湿地、棚田などがモザイク状に分布する多様な自然環境を有し、地域住民に対して自然観察や散策、環境学習の機会を提供する場となっている。

2.希少な動植物種の生息の場

複数のため池および湿地環境とコナラ・アベマキを中心とした二次林がモザイク状に存在している湿地～二次林の環境で、愛知県内でも分布が限られる両生類や昆虫類、植物等の希少種の生育の場となっている。

掲示板

機関誌「なごやの生物多様性」第13巻を発行しました

なごや生物多様性センターでは、地域で実践されている調査・保全活動等で得られたなごやの生物多様性に関する情報を、正確に記録し広く発信するために機関誌を発行しています。第13巻では、なごやに関わる生きものたちの話題など、原著論文をはじめ26報が掲載されています。ぜひご覧ください。



名古屋市
公式ウェブサイト
機関誌
「なごやの
生物多様性」

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/kankyoku/1012463/1034795/1034796/index.html>

第14巻 投稿募集

2026年度に発行予定の第14巻の投稿を募集します。生物多様性に関わる活動を行っている市民、保全団体、専門家、学校、企業の方などなたでも幅広い分野から投稿できます。投稿規定や期限など、詳しくはウェブサイトをご覧ください。皆さまからの投稿をお待ちしています。



「市民生きもの調査員」に 登録しませんか？

生物調査や講習会、イベントなどの実施情報を直接メールでお届けします。どなたでも登録できます。詳しくは協議会ウェブサイトへ！

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地
電話 052-831-8104(平日 8:45～17:30) FAX 052-839-1695
E-mail bdnagoya@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索
<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト
<https://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会
<https://bdnagoya.jp/>

地下鉄
塩釜口駅2番
または
3番出口から
徒歩5分

